

## 第 17 回 サテライト・サービス番組審議会議事録概要

---

### 1. 開催日時

令和 3 年 6 月に開催予定であったが新型コロナウイルス感染拡大予防の為、審議は文章による意見交換で行なった。

### 2. 参加者

委員長：吉岡忍

委員：竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎、砂川浩慶、宮崎美紀子、笹田佳宏

株式会社サテライト・サービス：加藤浩輔、岡崎洋三、福本洋、藤沼聡

株式会社フジテレビジョン：永竹里早、岡本栄史

株式会社 ジュピターテレコム：木村秀行、森井健策

### 3. 議題

- 1) 『イギリス野生動物レスキュー』 ep. 1 アニマルプラネットで放送
- 2) 『オレたちカーリングストーンズ』 フジテレビ NEXT で放送

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

#### 1) 『イギリス野生動物レスキュー』

- ・ どれも見ていてホッとする。スタッフの態度も真剣で優しい。人間の生活圏と野生の生き物たちとの距離が、日本などよりもずっと近いことにも驚く。日本では「共生」の考え方がないのはどうしてだろう、と考えさせられる番組。
- ・ ひとつひとつのエピソードを個々にまとめるのではなく、全編を通じて振り分け時間的経過を表現する編集方法は、スピーディーで巧み。それでいてわかりにくくはない。これは日本のテレビの編集手法を広げるためにも参考になるのではないか。
- ・ 登場人物の動物を愛する気持ちが込められていて、実に素晴らしかった。吹き替えとはいえ表現力に優れた言葉の数々だったと感服した。番組の構成も素晴らしかった。
- ・ 日本では法令や条例を作るばかりでそこから先の対応には課題が残されている。保健所と獣医とリンクした、イギリスの様なレスキュー組織が必要ではないかと痛感させられた。
- ・ 日本の動物に関わる人のドキュメントは情に訴えたり説教臭さを感じるものが多いが、この

番組はテンポが良く、ちょっとしたヒーローものを見ている様で見やすかった。

- ・ 日本にも RSPCA（英国動物虐待防止協会）のような動物レスキューの専門組織が必要では、と考えさせられた。
- ・ 番組では組織の資金源やスタッフの契約状況や報酬等は詳しく説明されていないので、もう少し詳しく知りたくなった。
- ・ 地球にて共生するべく動物や生物を、人類がその生態をいかに妨害し続けているかを改めて知らしめる、素晴らしいドキュメンタリー番組。地上波ゴールデンタイムにこのような番組が放映される事を望む。
- ・ 我々の生き方そのものに、根本からの見直しをして、地球と共生していこうという動きが世界中で加速している。その様な SDGs 時代に重要性が増し、SDGs の啓発に貢献する番組と思った。
- ・ この様な番組を放送する前に生放送枠を作って、「私たちにできる動物との共生方法をさぐる」といった討論番組があってもいいなと思う。それくらい、この番組を見ていると色々議論を聞きたくなるほど問題意識を感じた。
- ・ シリーズとして放送するのであれば、RSPCA はどのような組織で、活動資金はどうなっているのか、スタッフは何人くらいなのか、年間どのくらいの動物をレスキューしているのかなど、基本的な情報が必要だと思う。
- ・ 今回は全ての動物が無事、自然に戻れたが、今後の番組では残念ながら命をとってしまう動物も紹介されるのか。紹介されないとすると、ドキュメンタリーとして不十分ではないか。
- ・ SDGs や ESG といった言葉が注目され、環境や社会の健全化や価値を上げることがさらに重要視される今日、視聴者がこの番組から受け取ったり感じたりすることは様々で、動物への興味関心というだけではなく、地球環境の現在や未来を考えるとといった「広がり」のあるものになるのではと思った。
- ・ ドキュメンタリー番組としての迫真性という観点からいえば、この番組を学校教材として考えているのであれば吹替が良いと思うが、成人を対象とするのであれば字幕の方がレスキュー隊の隊員の生の声が聴けてよかったのではないかな。

※委員からの質問に対し制作サイドから回答（ジュピターテレコム 森井健策）

**【質問】**

出演者の動物を愛するコメントが素晴らしすぎて俳優の科白かとも思ったが、実在の RSPCA（英国動物虐待防止協会）スタッフのコメントなのか？

**【回答】**

実在の RSPCA スタッフです。

**【質問】**

RSPCA の組織の資金源はどうなっているのか、スタッフは長期雇用なのか短期契約なのか？報酬はどれくらいなのか？

【回答】

組織に問い合わせたわけではないのですが、こちらで調べたところ、基本的には寄付金で運営されているようで、オフィシャルグッズを扱うオンライン・オンサイトのショップも展開しているようです。スタッフの雇用形態や報酬については分かりませんでした。

【質問】

今回はすべての動物が自然に戻れたが、今後の番組では残念ながら命をとってしまうケースも紹介されるのか？

【回答】

今回のシリーズ（全 10 話）の中では動物が命を落とすシーンは確認できませんでした。

【質問】

RSPCA の基本的な情報が必要だと思う。イギリスでは有名なのかもしれないが、日本で放送するのであれば、ナレーションなりテロップなりを示してもらおうと日本の視聴者にとっても理解が進むものでは？

【回答】

組織について補足するようなテロップを画面に焼き付けることは弊社の通常の二ヶ国語番組制作フローでは難しいのですが、ナレーションで補足することは可能なので、今後のために貴重なご意見として承ります。ありがとうございました。

## 2) 『オレたちカーリングストーンズ』

- ・ 50 代の男たちのバンドのスタジオ演奏と“お題拝借”的な即興作詞作曲（？）&ゲーム風バラエティの組み合わせ。この種の番組はファン以外なかなか批評しにくいものだが、意外や意外、見ていて楽しめる内容になっていた。
- ・ 演奏シーンのスタジオはそれなりに作り込んでいるが、バラエティ部分はさすがにチープ。だが、なぜかこのバンドには似合っている。
- ・ ナツメロのくり返しではなく、叙事を通じて時代と人間の関わりを描く大人の歌をあらたにつくる、そんな意気込みでこうした音楽番組を育ててもらいたい。
- ・ 地上波のお笑い番組に辟易とした私には、質の違いと音楽センス、古き良き時代のオマージュで見ている者の心を和ませる秀逸な番組構成に、久々に笑いのツボを直火で刺激されたような感覚に陥った。
- ・ ライブ部分とバラエティ部分のつながりの良さに舌を巻いた。根底に流れる「遊び心」やキ

- キャラクターにブレがなく、非常に一体感があり楽しめた。定期的に新作を放送してほしい。
- ・ CS フジテレビ系列しか制作できない番組コンテンツ。次回があるのであれば、観てみたいが、アーティスト側と番組制作側との企画次第かと。
  - ・ 冒頭のバニーガールや、猥雑で性的な表現も沢山ある歌詞、それが放送として適しているかどうかは私にはわからないが、それも含めて「俺たち、アホなんだから、許してよ。みんなだっけさ、たまにはアホに戻ったら？」と言われている気がする。それは 2021 年の日常に疲れているオジサン視聴者の思いにもつながるのでは。
  - ・ 今、ほぼすべてのテレビがコロナや五輪など同じような話ばかりしている。励ますとなると真面目な演出ばかり。そんな時に真逆な所から強烈な一矢を放ったのが、この番組だと思う。あえて「一生不良でいいじゃん」というロックンローラーのメッセージを真正面から届ける、そこにフジテレビの矜持を感じた。
  - ・ 1時間 30分という時間は視聴する前は長いかな、と感じていたが、バラエティと音楽が両立し、時間を感じさせない楽しめる番組だった。
  - ・ お仕置きから”Down Town”の曲で締める、まさに「オレたちひょうきん族」を彷彿とさせるエンディングなど、80年代のフジテレビのバラエティをオマージュしている点は楽しめたが、バニーガールの起用は今の時代にそぐわないのではないかな。
  - ・ 音楽界の大御所が勢ぞろいして作ったバンドが出る番組だから面白くないはずはないのであるが、期待はずれだった。視聴者は、大御所が集まることで生まれる化学反応や音楽に向き合う姿勢などを楽しみに番組を観るのではないかな。あまり考えられていないお題に対して即興を披露させられる姿よりも、彼らの音作り、演奏にもっとフォーカスした方がよかったのではないかなと思う。

※委員からの質問に対し制作サイドから回答（フジテレビジョン 永竹里早）

**【質問】**

定期的に新作を放送してほしいが予定はあるのか？

**【回答】**

今年度中に第2弾を制作するべく打ち合わせが始まっています。できれば年1回の企画にしたいが出演者6人のスケジュール調整が厳しいです。

**【質問】**

「俺たち、アホなんだから、許してよ。みんなだっけさ、たまにはアホに戻ったら？」というのが番組メッセージなのか？

**【回答】**

このバンドのメンバーは全員日本を代表する超一流ミュージシャンでありながら、どこかゆるくて独特なユーモアを持つ癒し系な一面を持っています。いい意味で「みんなもたまにはアホになろうよ」は、間違いなく番組のメッセージであると思います。

**【質問】**

コロナ禍だからこそ、この番組を作る事に意義を感じているのか？

**【回答】**

まさにコロナ禍だからこそ成立した番組ですので、ライブやエンターテインメントに制限がかかっている日々だからこそ、ファンをはじめ多くの人々にテレビの力を使って「楽しみ」を提供したいという思いはメンバーも我々制作も強く持っていました。

**【質問】**

80年代のフジテレビのバラエティをオマージュしている点は楽しめたが、バニーガールの起用は、今の時代にそぐわないのではないか？

**【回答】**

バニーガール自体も80年代バラエティへのオマージュそのものでしたし、まさに女性に目が無い（自称）斉藤和義さんのリアクションをとるための起用でした。ただし、あのセットの中で浮いていたことは否めませんので、今回はあの立ち位置の女性にセクシーさは求めつつ時代とアンマッチにならないよう気をつけたいです。

#### 4. 次回予定

令和3年10月中の開催を予定。議題対象番組は調整中。